酬恩庵（一休さんのお寺）

酬恩庵は、禅僧として名高い一休宗純によって 1456 年に再興されたことにより「一休寺」として広く親しまれています。ここには、一休の木製の仏像が安置してあります。この木像は、一休が亡くなる前年に高弟によって造られ、没後一休の髪を植えたとされています。酬恩庵は、境内の庭園の美しさでも有名で、国指定の名勝とされています。国の重要文化財は 10 個あり、本堂、方丈、先に触れた「一休和尚坐像」、庫裏、「唐門」、東司などがあります。境内には宝物殿があり、一休の墨跡、天皇が使われた品、宝物などが展示されています。

寺伝によると、酬恩庵は、1288 年から 1293 年の間に禅の道場として草創されたのが始まりであるとされています。1330 年前半の兵火にあい衰退してしまいました。しかし 1456 年に、禅僧として名高い一休宗純によって再興されました。その後しばらく旅を続け、後に酬恩庵を居とされ、88 歳で亡くなるまで晩年を過ごしました。境内に建てられたご廟所（宗純王廟）に埋葬されています。

一休宗純について

1394 年京都に生まれた一休は、広く愛されているとんちで、その姿が良く思い出される日本の歴史上の人物です。これらの話の中の一休の一風変わった言動は、実際におどけているのですが、禅宗の教義の精神の表れと考えられています。これらの話は、論理的なことが多い禅の発想を持っているため、思考を凝らす必要があります。

一休は、当時の天皇の落胤と考えられており、6 歳の時に寺院に入門しました。詩の才能を開花させ、その作品は現在も大切に保存されています。一休は、有名な高僧のもとで弟子となり禅の修行に励んだものの、公の場以外の禅師としての方がよく知られています。旅人のようにさすらい、そして鋭いとんちで一休は、いたずらばかりするとの評判もありました。現在、日本の多くの子どもたちから、国民のヒーローとして慕われています。